

11・6 日比谷へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2011年9月15日
No. 1

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>

全学連大会の成功引き継ぎ、 原発反対の大デモを!



- ★「フクシマの怒り」とともに、全原発の停止・廃炉へ!
 - ★「教育の民営化」を打ち破り、全国大学に学生自治会を!
 - ★9・19に大結集し、学生こそ反原発デモの最先頭に!
 - ★11・6反原発・反失業大集会1万人へ!
- 全世界の仲間と連帯し、新自由主義を打ち破ろう!**

斎藤郁真委員長の就任のあいさつ

法大闘争は指導部をつくり出し、学生の団結をつくり出し、国家権力の想像のはるか上をいって勝利した。5年半の法大闘争を代表する人格として本年度の全学連委員長になるということをはっきりさせたい。

法大闘争の内容をすべての大学でつくりだす。これが何よりも大事だ。

今、大学の中で学生がおとしめられている現実、行動したいと思っているけど、抗議することすら頭の中になかった。こんな現実をぶち破らなくてはならない。学生の結集軸をつくらなくてはならない。

これが法大闘争をやりぬいてきた私たちの責任だ。私たちの歴史的使命だ。



新委員長に就任した斎藤郁真君(法大・法学部)

最後はその運動の思想にかかっている。マルクス主義ということだ。マルクス主義は経済学の一範疇ではない。これから私たち自身の運動で、運動を体現する私たち自身の人格で、それは違うということを証明する。

人間は団結して、隣の仲間と協力しあって、社会を運営できる存在なんだということを、マルクスは証明した。実際、労働者はそういう運動をやったということから、解答を見つけだした。私たち学生は、あらためてこういうことを復権しなくてはならない。

原発をつくだした社会のあり方、被曝労働に代表される労働者をモノとして扱わなかったら成り立たない産業。こういうことをいまだに進めている奴らがいる。こんなのは絶対に許せない。

福島の人達も立ち上がりたと思っている。しかし生きていけない。放射能の恐怖がある。政府が補償しない。放射能が安全だと言わなかったら、自分のもってる農作物が売れない。生きていけない。安全だと信じるしかない。

福島原発事故を教訓として、原発を輸出することが日本の国際貢献だといわれている。しかし本質は福島県民を見殺しにするということだ。これに対して福島の人達は立ち上がろうとしている。実際に立ち上がって闘っている人たちがいる。でもこの見殺し政策の中で、その人達に目が向く。この状況を、学生の力で突破しなくてはならない。

私たちの未来がどこにあるのか。自分たちの行動ではつきりさせよう。そのための組織をすべての大学につくりあげよう。それをつぶそうとする奴ら、その象徴である御用学者、大学当局、自治会。こいつらと徹底的に闘おう。

私のことを信頼してほしい。一緒に闘い抜こうじゃありませんか。

坂野陽平書記長の就任のあいさつ

全学連の黄金時代をつくりたい。自分としては愚直にやりたい。

法大から委員長を出し、書記長を東京に置くということは、いちばん激しくて、厳しくて、大衆が流動化している首都から闘いを爆発させるということだ。

リーダーというのは時代がつくりと同時に、みんながつくりだすものだ。ここに集まったみんなが「こいつが俺のリーダーだ」といえるようなリーダーになりたい。



新書記長に就任した坂野陽平君（上智大・文学部）

織田陽介前委員長の退任のあいさつ



退任のあいさつを行う織田陽介前全学連委員長

退任にあたって何点か訴えたい。

一つは時代認識の問題だ。9・11新宿デモのデモコースが直前に警察によって変わる。こんなことは近年なかった。これは3・11以降のことだ。民衆が決めたことで国家権力が動く、政治が動き出す。これは3・11以降の重要な特徴だ。これが時代の基底にある。学生が動き出した時、歴史が動く。これが日本の歴史だ。

時代認識は人間を元気にする。力を引き出す。時代認識をキャンパスでも真正面から議論する。どういう時代に俺たちは生きているのか。平和で何も闘わなくていいときなのか。もしくは闘っても闘っても絶対にこの社会はひっくり返らないときなのか。それとも僕らのひとりひとりの闘いが情勢を動かすような時代に入っているのか。こういうことを真剣に議論してキャンパスで闘ってほしい。

全員が強烈な指導部になってほしい。強烈なリーダーになってくれ。それは思想で闘うということだ。

全学連委員長になる直前まで、有朋寮にバリケードを組んで立てこもっていた。廃寮反対闘争をやっていた。有朋寮に最後残ったのは7人。たった7人だが、強制執行の判決を受けて、法律的に不法行為になっても闘った。あのときの街の反応はすごかった。地域ぐるみの闘いになった。たった7人でも学生が団結したときのエネルギーが人を動かす。これを有朋寮闘争の中で掴んだ。それが一つの思想だ。みんなが本気になること、本気になって一緒にやろうと思うこと、自分の中から出てくるもの、それは一つの思想だ。

学生が団結するということ、人間が団結するということ以外に正しいことはない。それがマルクス主義だ。それが思想だ。思想で人間が闘う、学生が闘う、強烈な指導部として現場に立っていくということが学生運動のひとつの核心だと思う。

この6年間でいくつかのことをやったという確信がある。

一つは、法大闘争を始めたということだ。全学連委員長になって半年で29人逮捕されるというところから始まった。有朋寮闘争の中でつくりだしたものを法大闘争に入れて、法大闘争を全国闘争として組織した。当時はまだまだ注目もなく、法大学生会館もあまり反撃できず解体された。全



国方針にして法大で学生が団結する。国家権力と渡り合う。一つの組織として気持ちをひとつにしていく。一つの感動的な闘いをやってこれが自分の成果だ。

二つ目は、国際連帯を開始したことだ。

三つ目は、法大闘争の勝利を確定させたことだ。法大闘争という一つの闘いが国家権力に勝利したことをこの大会をもって言い切ることが大事だ。この中から指導部を生み出した。敵はこの首都東京に学生運動をつくらせないはずとやってきた。弾圧でつぶれるどころか首都圏の学生が逆に立ち上がってひとつのリーダーを、一つの体制を生み出したという自体をはっきりさせたい。

人間は自分の信念や思想というものを自分の闘いで、自分の組織で、人間と人間の関係の中から以下に広げていく。それが人間だ。それが人間の生き方だ。それは簡単なことではない。一人ひとりと向き合って団結していく。このよう中からしか自分の思想が物質化されていくということはない。組織と言っても人間だ。自分の信念、思想を拡大していく、物質化していく。これはすごく泥くさいことだ。しかしそれが一番強い。それ以外に正しいことなんかない。何か決まっている答えなんかない。教科書みたいなものはない。法律が正しいのか。先輩が言うことが正しいのか。正しくない。時代が変わればそんなものはどんどん正しくなくなる。昨日正しかったことが今日正しいとは限らない。

正しいということは何なのか。それは仲間が団結するかどうかだ。それが思想だと僕は思う。

強烈な指導部になろう。われわれ一人ひとりは存在として対等だ。権力をもっているやつがいようが、野田首相のようなやつがいようが、存在として対等だ。彼らが国家権力をもっていて、何十万という機動隊が彼の一言で動こうが、存在として対等だ。だから彼らが何を考えているのか、彼らが今何をしようとしているのか。情勢や敵の攻撃の本質をわれわれが明確に見抜いて、大衆の思いだとか、行動を先回りして守り抜く、闘いぬいて守り抜く、そういう強烈な指導部が必要だし、思想とはそういうことだ。どんなに小さな組織でも国家権力と渡り合っていくことはできるし、勝利することはできる。

最後にいいたいことは、すべて人格によって決まるということだ。人間によって決まる。結局勝つか負けるかは、

自分の組織に人が集まってくるか、とられるかだ。それ以外に勝敗なんてどこにもない。膝をつきつめて、一人ひとりと向き合って、団結するために必死になっているというところの中から、僕らの人格的魅力が生まれてくるし、人格的求心力が生まれてくる。そういう中にしか、人が動くとか、人が集まってくるとかいうことは絶対にない。だから国家権力を相手がもっていようが、たとえ相手が大統領だろうが、首相だろうが、人格として対等であり、もっといえばわれわれが人格として圧倒していく、それが闘い方だと思う。これから11月集会に向かって、団結してほしい。団結することに一切をかけてほしい。学生の団結を組織することに一切をかけてほしい。それ以外の答えなんて絶対にない。人間として、人格として、強烈な指導部として国家権力を圧倒する人格として登場することがわれわれが情勢を切り開く最大の核心である。ここにいる一人ひとりが、誰が相手になっても対等に渡り合える、存在として対等である、マルクス主義という立場に立ちきって、そうやって闘うということが最大の核心だ。

すでに原発反対運動に責任をとりはじめていて、これが広がろうとしている。労働者も、弁護士も、医者も、この組織の下で方針をつくって立ち上げられるような組織をつくっていきたいと考えている。



全国各地の 9・11 反原発行動



福岡



群馬



新潟



広島



大阪

9月12日付琉球新報1面には、福島労組交流センターを先頭として開催された福島現地デモが掲載され、「貧しい県に迷惑な施設を押し付ける構図は基地問題と同じだ。命を考えたら基地も原発もいらない」という佐藤幸子さんのコメントが引用された。沖縄と福島の闘いが一つになろうとしている。



仙台

9・19さようなら原発5万人集会

◆日時 9月19日 (月・休日)

10時

「すべての原発いますぐなくそう全国会議」主催
前段集会

13時 ライブ

13時半 集会

14時15分 パレード

◆場所 東京・明治公園

(新宿区霞ヶ丘町6 JR総武線千駄ヶ谷駅)

※当日千駄ヶ谷駅に「学生集まれ」ののぼりをもった仲間がいます。

◆主催

「さようなら原発」一千万人署名市民の会

